

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600184	事業の開始年月日	平成25年4月1日
		指定年月日	平成25年4月1日
法人名	桜栄企画株式会社		
事業所名	グループホーム「オーシャン天王町」		
所在地	(240-0004)		
	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩間町1-8-12		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果 市町村受理日	

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1490600184&SVCD=320&THN0=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつまでもイキイキと自分らしい生活ができるよう、お一人お一人の気持ちに寄り添い、安心安全安楽な環境を提供します。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年10月8日	評価機関 評価決定日	平成27年11月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム「オーシャン天王町は」相鉄線天王町駅から徒歩3～4分、あるいはJR線保土ヶ谷駅から8分程度の利便性の良いビルの4、5階にあります。3階に同法人小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。</p> <p><優れている点></p> <p>ホームの理念やコンセプトにある、「人々を幸せにできる介護」「笑顔を引き出すホーム」作りのため、フロア会議のほか、業務改善、接遇、リスクマネジメント、行事の各委員会においても職員は積極的に意見交換を行っています。職員からの意見はまず実行する姿勢で取り組んでいます。ホーム内は明るい雰囲気、世話好きな入居者がさりげなく若い職員のサポートをしてくれる時もあります。リビングのテーブルでは、利用者同士おしゃべりに花が咲いています。また、入居者が、地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域との関わりを積極的に持っています。日常的な散歩や買い物、定期的なボランティアの訪問で入居者は新たな関係を築いています。町内会との関係も良好で、ホーム行事のバザーには毎回数十名の参加を得ています。町内会の計らいで公園の花壇を借り、入居者と花を育てているなど、生き生きとした自分らしい生活の継続支援に努めています。</p> <p><工夫点></p> <p>インターネットのブログで入居者のホームでの生活の一コマを写真を交えて知らせています。散歩、地域のお祭り参加、ホーム内でのレクリエーションの様子など新しい情報を更新しています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム「オーシャン天王町」
ユニット名	4階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム、ユニット会議を毎月1回開催し、ホーム理念をスタッフ全員で共有し運営している。	ユニット出入口や事務室に掲示したホーム理念、コンセプトは開設時に作成しています。今年度、管理者の交替後も継続することを確認しています。職員は、ユニット会議などケアの話し合いをする中で共有、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りに参加したり、ホームにてバザーを行い、地域住民と積極的につながっている。	ホーム行事のバザーは回覧板を通じて地域に告知し、毎回数十名の参加を得ています。町内会の計らいで公園の花壇を借り、入居者と花を育てています。ボランティアとの定期的な交流もあり、地域と活発なつきあいをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学で来訪された方たちや定期的に訪問をしている各施設などへ認知症の介護の現状及びスタンスなどを説明している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では介護サービスへの取り組み報告やご家族からの要望をお聞きして、ご入居者へのバックアップに活かしている。	運営推進会議は、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員の出席を得て、2ヶ月に1度定期的で開催しています。入居者や区職員の参加の機会もあります。家族には毎回議事録を送付して取り組みを伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	横浜市介護担当者へは報告、相談等常に連絡を取り協力関係を築いている。	区の介護保険課担当者に、運営推進会議開催の案内や議事録を送付し、ホームの活動や取り組みを伝えています。担当者とは必要に応じて連絡を取り、相談したり助言を受けることとしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	常に身体拘束をしないケアの実践をしているが、今以上に職員間で共有し身体拘束ゼロに取り組みたい。	スピーチロックを含む身体拘束をしないケアについて、ユニット会議などで管理者は折にふれ話し、職員の意識づけを行っています。各ユニットの出入り口は、防犯対策や入居者の安全確保を最優先に考え、電子錠で対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	今後、ホーム会議の中で虐待防止などの研修を実施していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々での研修を受けているが、それらの知識を活用出来ていない。今後は職員全員で同じ研修を受けて支援できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書や利用契約書の内容を説明し理解していただいたか確認し契約を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者、ご家族からの要望は全て出来てはいるが、要望には確実に対応している。	基本的には家族の面会時に意見や要望を聞いています。ホームだよりなどの送付はありませんが、ブログで入居者のホームでの生活の一コマを写真を交えて知らせています。普段の食事内容に関して、家族から不満を感じる声が数件届いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との面談は定期的実施している。業務改良、介護対応、困ってる事などを話し合い業務に反映させている。	月1回のフロア会議は基本的に全員参加で実施しています。業務改善、接遇、リスクマネジメント、行事の各委員会においても積極的に意見交換を行っています。職員からの意見はまず取り組む姿勢でサービスの向上に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者や上司へホームの現状や思いを報告し職場環境の改善に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修等を受けることにより知識を蓄え介護現場での実践に役立て個人の実力を上げている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者に定期的な訪問を行い管理者、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーなどと情報交換を行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	普段の生活の中から、その方のニーズを把握し、できるだけ要望に沿った介護サービスを行い関係性を築いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前のアセスメント時に、ご入居者の要望をお聞きしそれと同時にご家族の要望を確認し関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダーが、その方の状況を見極めてからサービス内容を決定しご家族に確認していただきサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは、ご入居者との生活を「家族を看ている」と考え必要な介護サービスを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご入居者、ご家族、ホームの3者がひとつになり、その方をバックアップできるように考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長年住んでいた地域のなじみの方たちや友人とは電話や面会で関係性を継続できるように対応している。	家族のほか、昔馴染みの人々の訪問を歓迎しています。親戚との手紙のやりとりを継続している入居者がいます。自宅での一時宿泊、墓参りや美容院など入居者が大切にしている場所への外出は家族の協力を得て支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者が一人にならないように常に間に入り調和を作っている。趣味や気が合う同士がいつも一緒にいられる空間をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族から相談を受けたりイベントにお呼びしたりして関係性を保っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者個々のニーズを把握し、出来るだけ要望に沿った介護サービスを提供できるように努めている。	おしゃべりが好きな利用者が多く、職員は日常の何気ない会話の中から思いや意向を把握しています。新しく得た情報は業務日誌に記録して、職員間で共有し、ケアプランにつなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居する前の見学などで、ご本人と家族から、今までどのような生活を一人でされていたか詳しくお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランに基づいて毎日の観察、会話などを介護記録に落とし、検証後ユニット会議で個々のサービスになるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族からの要望や話し合いを行いケアプランに落とし込んでいる。	本人の思い、家族や医療関係者の意見なども取り入れケアプランを作成しています。管理者とケアマネジャーで話し合い、プランに沿ったケアを実践し、その記録をモニタリングの際にわかりやすいようにする検討を始めています。	ケアプランに基づいた支援を行っているか、プランと記録の連動化に取り組まれることが期待されます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活や観察した内容を記録しその内容をスタッフ間で共有し、チームケアに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況が変化しても様々な介護サービスを実施しているが、サービスの多機能化には入り込めていない。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	レクリエーションの場として地域の公共施設やお店を使っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診医の診療を実施しその方の病状によりお薬により薬の処方箋を出している。	契約時に本人・家族と話し合い、かかりつけ医を決めています。入居前のかかりつけ医での受診継続を希望する場合は家族が同行し、指示書等で連携を図っています。事業所の協力医は月2回の定期訪問診療のほか、24時間の連絡体制をとっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週金曜日に訪問看護師による健康チェックやスタッフからの医療相談や質問に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時にはご家族のムンテラに同席させていただき、状況の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化や看取りなどについて説明し、支援体制に納得していただいている。	重度化と判断した場合は「急変時の対応確認書」を家族と取り交わし、サービス担当者会議で今後の方針を共有しています。看取り介護を実施する場合は、同法人小規模多機能型事業所の看護師の協力を得ることも可能となっています。	重度化や終末期のあり方について、入居時の説明を含め、できるだけ早い段階から入居者の意向もくみ取りながら、方針を共有されることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	普通救命講習を修了している職員がいる。今後はすべての職員に講習を受けてほしい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施している。地域との連携もとっている。	訓練時のほか、入居者をスムーズに誘導できるよう日常のレクリエーションで非常階段の昇降を取り入れています。地震や水害等の災害については、ホームが鉄筋コンクリートのビル内にあるため、室内で救援を待つ方針としています。	本年度の避難訓練はまだ実施されていません。運営規定に明記した年に2回の訓練の実施が期待されます。職員が手薄になる夜間を想定した訓練についても検討が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには会話や声掛けには特に注意して対応するよう指導している。また、子供言葉や強い口調の声掛けに注意するよう話している。	利用者の呼び方は、本人と家族の了解を得て決めています。利用者からの要求にすぐに応えられない時は、理由をきちんと話し納得してもらっています。職員は業務改善・接遇・リスクマネジメントの各委員会、問題点の改善にむけて話し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎日のご入居者との会話の中で要望などのヒントを見つけ出し対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフは各業務の時間帯で動いているため業務を優先していることが多い。できるだけご入居者の希望に沿った支援を行うようにしたい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	上の手入れや服装などはご自分でできる方はやって頂き、できない方はスタッフが対応している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来るだけ手作りの物を提供している。ご入居者には出来上がったものを取り分けたり配膳したりのお手伝いをお願いしている。月に2回はご入居者と共に調理も行っている。	配食サービスを利用していますが、ご飯をパンに替えるなど、利用者の希望に添うよう努めています。月2回の食事レクリエーションでは、チラシ寿司、ハンバーグといった献立・食材の購入・調理など利用者が主体となるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご入居者別に1日の水分摂取量を確認し、個別の状況及び状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアを行い誤嚥性肺炎、歯肉炎などの予防を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	基本的にトイレでの排泄をお願いしている。夜間はトイレから遠い居室やトイレの場所がわからない方についてはポータブルトイレを使用させていただく場合もある。	排泄チェック表を基に、時間を見計らってさりげなくトイレへ誘導しています。日中はおむつは使用せず、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしています。失敗した時は、羞恥心や不安を軽減するような声掛けに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因である腹筋の低下、運動不足や水分不足にならないようにし、便秘の予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は基本的な曜日や時間があるが、その時のご入居者の状態により変更したりして対応している。	浴室は可動式の浴槽で、リフトの設備もあります。入浴は週3回で、時間は一応決めています。本人の希望になるべく合わせるよう配慮しています。入浴を嫌がる入居者へは、足を洗うなど入浴を意識させないように誘導したり、声かけを工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	普段の生活の中から、その方のニーズを把握し、できるだけ要望に沿った介護サービスを行い関係性を築いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬業務は特に注意が必要な業務である。薬効などを理解し誤薬が内容にダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	町内会の花壇の手入れや書道やフラワーアレンジメント、スタッフと様々なものを制作したりなど、それぞれの方が楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外出レクリエーションや、買い物、散歩、ドライブ、など楽しんでいる。	散歩や買い物のほか、岩間町公園の花壇を借り受け、花の手入れに出掛けています。花見・神輿祭り・海の公園でのバーベキューなど、季節に合った外出レクリエーションや、利用者が作った手作り弁当を持ってドライブへ行くこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	すべてのご家族からホームでその方のお小遣いを預かっている。買い物などでお金がわかる方はご自分で払いお釣りをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居契約時にご本人からご家族の方に電話や手紙のやり取りをしてよいかの確認をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア、共有部分にはなるべく物を置かないようにしている。ご入居者の銅線を考え物の配置などを検討し設置している。	リビングには収納式の畳ベンチを置き、レクリエーションに使う道具を収納しています。壁には利用者が制作した季節に合ったカレンダーを飾り、鏡には布を被せるなど入居者が安心して過ごせるよう工夫しています。廊下は1人掛けソファを置き、ゆったりとした空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアでは一人でもくつろげる空間をつくっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には今まで使い慣れたものを持参していただき居室内に配置している。安心できる空間づくりをしている。	居室にはベッド・エアコン・洗面台・カーテンが備え付けてあります。タンス、写真、思い出の品々を持ち込み、入居者と相談しながら居心地の良い環境作りに配慮しています。布団も貸与のため、週1回のリネン交換と季節ごとの布団の交換があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特にトイレや洗面台などを安全に使いやすくしている。		

事業所名	グループホーム「オーシャン天王町」
ユニット名	5階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム、ユニット会議を毎月1回開催し、ホーム理念をスタッフ全員で共有し運営している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りに参加したり、ホームにてバザーを行い、地域住民と積極的につながっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学で来訪された方たちや定期的に訪問をしている各施設などへ認知症の介護の現状及びスタンスなどを説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では介護サービスへの取組み報告やご家族からの要望をお聞きして、ご入居者へのバックアップに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	横浜市介護担当者へは報告、相談等常に連絡を取り協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	常に身体拘束をしないケアの実践をしているが、今以上に職員間で共有し身体拘束ゼロに取り組みたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	今後、ホーム会議の中で虐待防止などの研修を実施していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	個々での研修を受けているが、それらの知識を活用出来ていない。今後は職員全員で同じ研修を受けて支援できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書や利用契約書の内容を説明し理解していただいたか確認し契約を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者、ご家族からの要望は全て出来てはいるが、要望には確実に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との面談は定期的実施している。業務改良、介護対応、困ってる事などを話し合い業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者や上司へホームの現状や思いを報告し職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修等を受けることにより知識を蓄え介護現場での実践に役立て個人の実力を上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者に定期的な訪問を行い管理者、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーなどと情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	普段の生活の中から、その方のニーズを把握し、できるだけ要望に沿った介護サービスを行い関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前のアセスメント時に、ご入居者の要望をお聞きしそれと同時にご家族の要望を確認し関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダーが、その方の状況を見極めてからサービス内容を決定しご家族に確認していただきサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは、ご入居者との生活を「家族を看ている」と考え必要な介護サービスを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご入居者、ご家族、ホームの3者がひとつになり、その方をバックアップできるように考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長年住んでいた地域のなじみの方たちや友人とは電話や面会で関係性を継続できるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者が一人にならないように常に間に入り調和を作っている。趣味や気が合う同士がいつも一緒にいられる空間をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族から相談を受けたりイベントにお呼びしたりして関係性を保っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者個々のニーズを把握し、出来るだけ要望に沿った介護サービスを提供できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居する前の見学などで、ご本人と家族から、今までどのような生活を一人でされていたか詳しくお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランに基づいて毎日の観察、会話などを介護記録に落とし、検証後ユニット会議で個々のサービスになるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族からの要望や話し合いを行いケアプランに落とし込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活や観察した内容を記録しその内容をスタッフ間で共有し、チームケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況が変化しても様々な介護サービスを実施しているが、サービスの多機能化には入り込めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	レクリエーションの場として地域の公共施設やお店を使っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診医の診療を実施しその方の病状によりお薬により薬の処方箋を出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週金曜日に訪問看護師による健康チェックやスタッフからの医療相談や質問に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時にはご家族のムンテラに同席させていただき、状況の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化や看取りなどについて説明し、支援体制に納得していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	普通救命講習を修了している職員がいる。今後はすべての職員に講習を受けてほしい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施している。地域との連携もとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには会話や声掛けには特に注意して対応するよう指導している。また、子供言葉や強い口調の声掛けに注意するよう話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎日のご入居者との会話の中で要望などのヒントを見つけ出し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフは各業務の時間帯で動いているため業務を優先していることが多い。できるだけご入居者の希望に沿った支援を行うようにしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	上の手入れや服装などはご自分でできる方はやって頂き、できない方はスタッフが対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来るだけ手作りの物を提供している。ご入居者には出来上がったものを取り分けたり配膳したりのお手伝いをお願いしている。月に2回はご入居者と共に調理も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご入居者別に1日の水分摂取量を確認し、個別の状況及び状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアを行い誤嚥性肺炎、歯肉炎などの予防を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	基本的にトイレでの排泄をお願いしている。夜間はトイレから遠い居室やトイレの場所がわからない方についてはポータブルトイレを使用させていただく場合もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因である腹筋の低下、運動不足や水分不足にならないようにし、便秘の予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は基本的な曜日や時間があるが、その時のご入居者の状態により変更したりして対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	普段の生活の中から、その方のニーズを把握し、できるだけ要望に沿った介護サービスを行い関係性を築いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬業務は特に注意が必要な業務である。薬効などを理解し誤薬が内容にダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	町内会の花壇の手入れや書道やフラワーアレンジメント、スタッフと様々なものを制作したりなど、それぞれの方が楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外出レクリエーションや、買い物、散歩、ドライブ、など楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	すべてのご家族からホームでその方のお小遣いを預かっている。買い物などでお金がわかる方はご自分で払いお釣りをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居契約時にご本人からご家族の方に電話や手紙のやり取りをしてよいかの確認をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア、共有部分にはなるべく物を置かないようにしている。ご入居者の銅線を考え物の配置などを検討し設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアでは一人でもくつろげる空間をつくっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には今まで使い慣れたものを持参していただき居室内に配置している。安心できる空間づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特にトイレや洗面台などを安全に使いやすくしている。		